

No. 53	昭和60年12月20日発行
ねじればね	編集：後藤光男 〒591 堺市百舌鳥西之町1丁目98-2 陵南住宅1号棟116号 電話：(0722)57局7009番
	発行：日本甲虫学会 〒658 神戸市東灘区御影山手2丁目19-8 大倉正文方 電話：(078)811局2706番 郵便振替口座 大阪9-39672番
Dec., 1985	

雨石山麓において鶏肉トラップに誘致
された甲虫類について (2)

林 靖 彦

2. 誘致された種とその季節的消長

オサムシ科 CARABIDAE(16種、292頭) 一表3-

1. オオオサムシ *Carabus dehaanii* CHAUDOIR
2. マヤサンオサムシ *Carabus maiyasanus* BATES
3. アキタクロナガオサムシ *Apotomopterus porrecticollis* (BATES)
4. クロナガオサムシ *Leptocarabus procerulus* (CHAUDOIR)
5. アカガネオオゴミムシ *Trigonognatha cuprescens* MOTSCHULSKY
6. コガシラナガゴミムシ *Pterostichus microcephalus* (MOTSCHULSKY)
7. マルムネヒメナガゴミムシ *Pterostichus latemarginatus* STRANEO
8. ホソヒラタゴミムシ *Pristosia aeneola* (BATES)
9. オオクロツヤヒラタゴミムシ *Synuchus nitidus* (MOTSCHULSKY)
10. クロツヤヒラタゴミムシ *Synuchus cycloderus* (BATES)
11. ヒメツヤヒラタゴミムシ *Synuchus dulcigradus* (BATES)
12. スジアオゴミムシ *Haplochlaenius costiger* (CHAUDOIR)
13. アトボシアオゴミムシ *Chlaenius naeviger* MORAWITZ
14. トックリゴミムシ *Lachnocrepis prolixa* (BATES)

15. クロズホナシゴミムシ *Perigona nigriceps* (DEJEAN)

16. カドツブゴミムシ *Pentagonica angulosa* BATES

ほとんどの種を同定していただいた 伊藤 昇 氏に厚くお礼申し上げます。

考 察：表3を見てまず気の付くことは、春には僅か4頭が、夏には21頭が誘致されているにすぎず、残り90%以上が秋に誘致されていることである。一方、上村1960を見ると、常念岳の高山域(2500 m以上)では誘致のピークが盛夏前の6~7月にあり、中~亜高山域でのピークは出現期の前期と後期にあるものの、全期間に互り満遍なく誘致されている。しかし、低山域では明らかに秋に集中して誘致されている。これらのことから低山地林内の地上性ゴミムシ類は種群の構成に著しい偏りがあり、地域が異っても種群の構成が類似しているものと考えられる。また、春に誘致されにくい原因は不明であるが食嗜の変化、行動の中心の変化などが考えられる。上村1960と共通する種を比較するとオオクロツヤヒラタゴミムシ、クロツヤヒラタゴミムシ、ヒメツヤヒラタゴミムシの3種の誘致状況は両地ともほとんど同じで、雨石山ではより遅くまで誘致されている。雨石山においてはヒメツヤヒラタゴミムシが優勢だが、常念岳の低山域ではクロツヤヒラタゴミムシが優勢であった。普通種のコガシラナガゴミムシが常念岳で得られていないのは不思議だが、雨石山では前の3種と同じような消長を示した。

ハネカクシ科 STAPHYLINIDAE (その1: 24種、1074頭。但し ALEOCHARINAE を除く) 一表4一

1. チビハバビロハネカクシ *Proteinus crassicornis* SHARP

落葉下、腐植質、キノコ等からよく得られるが、食屍性もかなり強いものと考えられる。

2. ハバビロハネカクシ *Megarthus japonicus* SHARP

3. *Omalium* sp. A

ヨーロッパ産(ボヘミア)の *O. rivulare* (PAYKUL) の近似種と考えられる。

4. *Omalium* sp. B

5. *Omalium* sp. C

上記A、B、Cともによく似た種であり、個体変異の可能性もある。食屍性の種群と考えられ、雨石山でのトラップ以外で得たことはない。

6. キバネヨツメハネカクシ *Orochares japonica* CAMERON

晩秋から早春にかけて畑地などの腐植質から得られる。

7. トビイロセスジハネカクシ *Anotylus vicinus* SHARP

8. *Anotylus* sp.

9. ヨコモントガリハネカクシ *Medon submaculatus* SHARP

10. クロニセトガリハネカクシ *Achenomorphus lithocharoides* (SHARP)

11. チャイロコガシラハネカクシ *Philonthus germanus* SHARP

12. クロコガシラハネカクシ *Philonthus japonicus* SHARP

13. ツヤアカバコガシラハネカクシ *Philonthus discrepens* SHARP

今まで採集例が少なく、トラップ近辺の腐植質中にも見られないことから、食屍性の強い種と考えられる。

14. ヘリアカバコガシラハネカクシ *Philonthus solidus* SHARP

腐植質にも普通に見られ、食屍性もかなり強いものと考えられる。

15. フタイロコガシラハネカクシ *Philonthus kobensis* SHARP

落葉下等から得られることが多く、畑地では得たことがない。データから食屍性もかなり強いと考えられる。

16. ムネスジコガシラハネカクシ *Philonthus rutiliventris* SHARP

17. アカバハネカクシ *Platydracus paganus* (SHARP)

18. カラカネハネカクシ *Platydracus sharpi* (FAUVEL)

19. サビハネカクシ *Ontholesthes gracilis* SHARP

アカバハネカクシとともにトラップ周辺の腐植質中に普通に見られ、食屍性も強いものと考えられる。

20. ツヤケシブチヒゲハネカクシ *Anisolinus elegans* SHARP

21. *Quedius* sp.

22. ハスオビキノコハネカクシ *Lordithon irregularis* (WEISE)

23. *Sepedophilus* sp.

24. ヤマトマルクビハネカクシ *Tachinus japonicus* SHARP

キノコ、落葉下、腐植質などから得られるが食屍性の強いものようである。

ALEOCHARINA 亜科の種については後日報告の予定である。

考 察：本科の種は雑食傾向が強いと考えられるので、ここに示されたデータだけで季節的消長を推論することには無理な面もある。また、ハネカクシ類の季節的消長を追跡した論著もほとんど見当たらないので、データの比較検討ができなかった。大阪甲虫同好会の調査報告“灯火に飛来した岩湧山の甲虫類”の中のハネカクシ科の項（びいとるず Vol. I, № 2）で筆者はデータの分析を行ったが、今回とは方法が基本的に異っているので、直接的に比較できない。そこで比較的個体数の多い種について考察して見た。

チビハバピロハネカクシは晩秋以後に誘致されるがそれ以前から出現している。また、厳冬期にも活動しており、食屍性は寒くなると強くなるようである。Omalium sp. Aは晩秋から厳冬にかけて

のみ出現するものか、またはその時期に特に強い食屍性を示すものと考えられる。ツヤアカバコガシラハネカクシは誘致のピークが初夏と中秋にあることから年2化と考えられる。ヘリアカバコガシラハネカクシはほぼ通年して腐植質中に見られることから、誘致の状況が本種の季節的消長を示しているとは言えない。ただ、8月中～下旬に小さなピークのあることから、そのころに何化目かが出現するものと考えられる。フタイロコガシラハネカクシは誘致のピークが春と秋に2分されていることから年2化で、出現初期には食屍傾向が強いものと考えられる。アカバハネカクシは誘致のピークが初夏と中秋にあるが、その間もよく誘致されており年2～3化と考えられる。サビハネカクシは誘致のピークが初夏、盛夏、中秋の3回あることから少なくとも年3回の発生と考えられ、当地では前種より優勢であった。ヤマトマルクビハネカクシは春期においてもトラップ周辺の腐植質に普通に見られるが、トラップには全く誘致されず、秋に多数誘致されている。これは季節により本種の食嗜に著しい変化が起るためと思われる。

コブスジコガネムシ科 TROGIDAE (1種、1頭) 一表5-

1. ヒメコブスジコガネ *Trox opacotuberculatus* MOTSCHULSKY

コガネムシ科 SCARABAEIDAE (7種、698頭) 一表5-

1. センチコガネ *Geotrupes laevistriatus* MOTSCHULSKY
2. マメダルマコガネ *Panerus parvulus* (WATERHOUSE)
3. クロマルエンマコガネ *Onthophagus ater* WATERHOUSE
4. フトカドエンマコガネ *Onthophagus fodiens* WATERHOUSE
5. コブマルエンマコガネ *Onthophagus atripennis* WATERHOUSE
6. ツヤエンマコガネ *Onthophagus nitidus* WATERHOUSE
7. カドマルエンマコガネ *Onthophagus lenzii* HAROLD

考 察：フン虫類の生活史に関する報文は数多くあり、今回のデータが特別目新しいものではないが、上村1960と比較し検討を加えた。センチコガネは雨石山においては初夏と中秋の2回誘致のピークがある。一方、常念岳においては5月下旬から9月末にかけて切れ目なく誘致され、秋口に小さなピークがある。また、常念岳においても個体数は低山域に多い。これらのことからセンチコガネは低山地では年2化と考えられる。クロマルエンマコガネは雨石山では少ないが、常念岳の低山域では多数誘致されている。フトカドエンマコガネは雨石山においては初夏を中心に誘致のピークがあり、秋にも少なからず誘致されていることから年2化と考えられる。秋に少ないのは食嗜の変化によるものか、発生数が少ないためではないかと思われる。なお、本種は常念岳では非常に少数しか誘致されていない。コブマルエンマコガネは雨石山で最も優勢な種であり、常念岳においても低山域で多数得られている。両地ともに誘致のピークが初夏、盛夏、初秋の3回あることから考えて年3化と考えられる。

(続く)

ハネカクシ科 (表4)

年 月	'79.XI			'80.I			II			III			IV			V			VI			VII			VIII			IX			X			XI			XII					
	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下			
チビハバビロハネカクシ		5	4		2		3	2		3	11	3	4	2		2	3	1	1												18	8	12				8	12	81			
ハバビロハネカクシ																		2																					2			
Onallium sp. A		1	7	3	4	5																																				
Onallium sp. B							1																											4	13	37			1			
Onallium sp. C		1																																					1			
キバネヨツメハネカクシ							1																																1			
トビロセネジハネカクシ																		1	2																				3			
Anotylus sp.																		1																					2			
ヨコモントガリハネカクシ		2																																					2			
クロニセトガリハネカクシ																1	1	1	1															1	6	1			12			
チャイロコガシラハネカクシ																		1																					5			
クロコガシラハネカクシ																1	2	1	1															1					8			
ツヤアカバコガシラハネカクシ																1	3	24	6	17	10	1	1											1	2	4	9	18	14	12	2	125
ヘリアカバコガシラハネカクシ																1	2	8	7	3	4	1	1	3	8	17	15	4	2	1	6								83			
フタイロコガシラハネカクシ		4	1	1												3	3	9	9		3	1												2	3	1	5	1	5	3		54
ムネスジコガシラハネカクシ																																							4			
アカハハネカクシ																1	20	33	38	8	16	3	5	9	1	10	5	4	5	7	22	6	4	1					205			
カラカネハネカクシ																																										
サビハネカクシ																10	19	36	20	7	8	12	12	2	29	23	1	2	8	26	69	19	4	2					309			
ツヤケンチビゲハネカクシ																																							3			
Quedius sp.																																							3			
ハスオビキノコハネカクシ																																							3			
Sepedophilus sp.		1																																					5			
ヤマトマルクビハネカクシ		57																																					1			
合計	64	1	6	12	3	4	7	4		3	11	4	5	6	3	13	48	69	111	38	44	28	19	23	9	47	52	21	14	26	48	131	55	42	16	39	20	25	1072			
ALEOCHARINAE	19	12	3	3	2	1		2	1	1	5	169	25	17	7	51	24	33	73	45	7	2	10	1	11	10	9	17	8	2	2	1	80	84	165	147	24		1073			

第41巻の会費は 5,000 円です

昆虫学評論第41巻の会費5,000円を同封の郵便振替用紙で3月末日までにご納入下さるようお願いいたします。

お 尋 ね

東大阪足代局から7月中旬に5,000円をご送金の方で、払込人住所氏名に当会の住所会名を記入されているため、どなたからの送金か判明しません。お心当りの方は至急お申出下さい。

新 入 会 員

住 所 変 更

退 会



認 定 退 会



「昆虫学評論」の原稿締切り日について

最近、当学会報「昆虫学評論」の原稿締切り日についてのお尋ねが再々ありますが、同締切り日は下記のとおりですから、ご留意のうえご投稿下さい。

第1号（6月下旬発行予定）→ 2月末日まで

第2号（12月下旬発行予定）→ 8月末日まで

ただし、各号は75頁前後ですから、締切り日までのご投稿でも収容量を超過した場合は次号に繰延べさせていただきますので、ご承知おき下さい。また、長文の場合は分割して掲載する場合があります。

掲載は原稿の受領順（お一人で2編、3編の場合はこの限りにありません）としていただきますので、上記締切り日にかかわらず、なるべく早い目にご投稿おき下さるようお願いいたします。